

# オウム真理教対策住民協議会ニュース

烏山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

## ひかりの輪・上祐史浩の正体

講師 藤倉善郎氏

烏山地域オウム真理教対策住民協議会 第32回学習会要旨

カルトとは人権侵害や違法行為などを組織的に行う、宗教団体やスピリチュアル団体であり、一般的にカルトと呼ぶことに異論がないのは、オウム真理教・統一教会・法の華三法行・ライフスペースなどである。麻原信仰を捨てないアレフは危険で、麻原信仰を掲げていないひかりの輪は危険でないという理屈は、カルト問題において成り立たない。

### ひかりの輪はカルトか

いま現在もカルトであるとまで断定することはできないが、真に反省し、カルト団体ではなくなった集団と言ったこともできない。仮に観察処分や地域の監視が弱まれば、再びカルト化する危険がある集団である。



講師 藤倉善郎氏

著名人・研究者の名前を利用して、好意的に評価した人物や研究などで関わりを持つだけで、教団のPRに利用されている。烏山

### 観察処分外し

ひかりの輪は2011年から外部監査委員会を設置し活動していたが、2015年1月、5回目の観察処分の決定以降、実質的な活動は特に見られず、委員長河野義行氏も2015年末に委員長を辞任した。外部監査委員会は外部組織との体裁だが、報告書の内容はひかりの輪を全面的に承認する形態などからも、ひかりの輪が観察処分外しを目的に設置したことは明白だ。

### メディア戦略

著名人・研究者の名前を利用して、好意的に評価した人物や研究などで関わりを持つだけで、教団のPRに利用されている。烏山

地域の抗議デモの際に、ひかりの輪が抗議文を受け取りに出なかったことを、ツイッターで「完全無視」と表現されると、訂正や事前検閲を要求するなど、自らに都合の悪い情報には嘘を辞さず、圧力を掛けるのが、この教団の実態である。



### 終わりに

上祐はオウム時代に兵器開発や未遂テロ計画に関わった人物。服役した理由のひとつは偽証罪である。こうした代表者に、オウム真理教時代からの信者が加わっているのが、ひかりの輪である以上、安易に信用するべきでない。国家転覆を狙ったテロ事件の被害者への賠償をテロ組織の残党に頼っていたり、オウムの信者が社会復帰しやすい仕組みがないのは社会の

## 抗議文

麻原を崇拝し、地下鉄サリン事件の犯行を認めないアレフは、麻原崇拝に拍車がかかるが、アレフとの違いを明確にするひかりの輪の言動からは危険が見えにくく、加えて組織そのものの本質も見えない。アレフから脱退し、ひかりの輪を設立してから9年となるが、その活動内容は地域住民から見れば「観察処分解除」を意識したものとする。ひかりの輪は、団体設立当初から、主流派アレフへの批判を集中する一方で、麻原を批判し麻原との決別を宣言することで、アレフは悪役、ひかりの輪は正義との図式を、世間にアピールしてきた。代表の上祐史浩は、評論家・映画監督など、幅広い人物との対談をホームページに掲載、対談者の知名度を利用して社会的信用を高め、ひかりの輪に危険がないことを装う。ほかにも、ひかりの輪を宗教団体でなく、宗教哲学のサークルと言ひ、教祖ではなく代表と名乗る。ネット上では、女性信者がブログで親近感を煽り、若者に接近してくる。さらに、松本サリン事件で冤罪被害者に仕立てられた、河野義行氏を委員長とし、宗教学者や修験道者などの理解者を動員した外部監査委員会は、ひかりの輪の主要な活動であったが、観察処分解除の力とはなりえなかった。ひかりの輪が、設立以来観察処分解除を最重要課題としていたことが見て取れる。執拗に観察処分解除にこだわり続ける、ひかりの輪・上祐史浩の本当の目的や狙いはどこにあるのか。不気味で不可解で油断のならないひかりの輪に対し、地域住民は断固解散・解体を要求する。

平成28年5月14日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会  
会長 古馬一行

側の問題である。社会の側の不備が、ひかりの輪に組織存続の口実を与えてしまっているという構図。社会の側の不備を解消することと、ひかりの輪の解散と両方をセットで考えて行くことが必要である。

## 寄稿 オウム反対活動に参加して

烏山の街に住んで70年、緑の多い静かな街？がマンション群に囲まれて人口急増の街に変貌している。住む人にとっては憩いの場であって、誰からも邪魔されたくない、と思うはずが、いつの間にか過激なテロ集団が入り込み暴れている。それには戦わなければならぬ、その活動が「オウム見張り小屋」「デモ行進」だが、参加することに老齢化が進みすぎているが、次世代の人にも烏山を住みよい街にと守ってもらうために、やめるわけにはいかない。

その一心です。気づいてみるとデモは、32回も実行され、オウム見張り小屋は児ヶ谷会からは、毎月委員の輪番制で参加しています。オウムがアレフやひかりの輪に名前を変えて生き残る作戦なら、我々も未来の子孫に遺恨を残さないために闘い続けていきたいと思います。頑張りぞ!! 老人パワーで、老害と言われぬように力を出しましょう。南烏山・児ヶ谷会・大場洋司

## 第32回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】平成28年5月14日(土)

【回収枚数】61枚

【参加回数】初めて(19)、2回目(3)、3回目(3)、4回目(4)、5回目(4)、6回目(2)、7回目(1)、8回目(2)、9回目(1)、10回以上(21)

### 【デモ・学習会への感想】

- ・今までよりも上祐の性格、行動を少し知ることができた。カリスマ性を持っていると思っていたが、そうでない様子など。解散・解体した時には、信者達は社会にどの様に受け入れられるのか。
- ・オウムに対する考えを新たにすることができた。
- ・広末とのツアーの話がおもしろかった。解散後の信者をどうするのかも考える必要がある。
- ・通例とタイプの違う講師で興味深かった。
- ・最近の上祐の具体的な行動を知れて良かったと思います。
- ・上祐がオウム信者に対して何らかの目印・影響力を示しているのが感じられた。単に解散すればいいと考えるのも危険であることを考えさせられる講演であった。
- ・オウム時代と今ではかなりカリスマ性がなくなったのでしょうか。生活の為に運営している組織としか思えない。(たまたまデモ行進を見て、初めて参加)
- ・異なる者同士が共存していくのは、ひかりの輪以外でもむずかしいものがあると思う。その為にも目を離さず監視するべきと思う。

・藤倉先生の講演では、かつてオウム真理教のスポークスマンであった上祐史浩の正体が大変よくわかりました。上祐が率いるひかりの輪もアレフと同様に危険な団体であり、麻原を崇拝しているのは間違いありません。オウム被害者の為にも完全に解散すべきです。

### 【住民協議会について】

- ・住民協議会は身近な問題として皆が受け止めなければならない。続けていく事が大切です。
- ・デモをしていると街を歩く人々がオウムの凶事を知らない世代である事をひしひし感じます。彼らの理解を得る事と、オウム真理教に利用される事を防ぐには、いかにすべきか。いずれにしても世間の忘却との戦い、時間との戦いはリアルタイムの問題だと痛感します。
- ・大変永らくの活動に感謝しています。若者やオウムの危険な思想を理解していない人に、これからもオウムに関する知識と人間として正しい行動がとられるように活動を広めて下さい。応援しています。
- ・長年続けられてありがとうございます。監視がなくなれば再び暴走する可能性もありますのでこれからも頑張ってもらいたいと思います。(大阪府から初めて参加)。
- ・烏山は本当に住みやすく快適な地域だと思います。大好きな烏山の街を守るために、オウム反対の運動を住民有志の方々がされてきたことは称賛に値します。オウム解体の日まで住民協議会の活動を応援したいと考えます。
- ・デモは効果なしと思う。問題を考える上で学習会は参考になる。

## オウム真理教(ひかりの輪)の謎に迫る③

ひかりの輪のホームページには、団体と信者個人の総括文もあるが、何とんでも上祐の総括文は「秀逸」?で、滑稽でもある。総括文の特徴は徹底した麻原の否定と随所に見られる、上から目線の文章と、虹にまつわる描写が多数あり、かなり大袈裟だ。筆者も度々山や溪流釣りなどに出掛け、尚且つ平日は仕事の多くが車での移動となる。そんな私でも、虹を見るのは2~3年に1回ぐらいだ。上祐は並外れた雨男か余程「運のいい人」と見える。それでは上祐のオウム真理教時代からの「壮大」な総括文にある、虹のくだりを見てみよう。無駄に長文でもあるので、部分的に割愛して掲載する。

「草津で、麻原と上祐自身の共通性という精神的な体験をした後に、空に7つの虹が見えた。太陽の周りを囲んでいるもの、更にその周りを囲んでいるもの、太陽の下を棒状になっているもの、太陽から遠く離れているもの。それは宗教的に神聖な意味を持ち、

自分に影響を与えた。ひかりの輪の名前の由来はこのような虹の体験からきている。その後似たような体験を繰り返し、2002年7月には太陽の周りを囲む虹、スポーク状の虹を5時間近くも見た。その時は仏陀の教えを冥想した時だった。さらに9月には仏教的なヴィジョンで、10月には火山の噴火があり、竜神のヴィジョンが現れた。その後世界中に向け神聖なエネルギーの回転体が現れた。その棒を押すと21世紀の大黒柱との声が聞こえた。乗鞍岳では光っている山があり、登ってみると大黒岳で頂上には大黒柱があった」

その後は富士山で虹を見たとか、聖徳太子が見た虹と同じ場所で虹を見たとか、とても読むに堪えない体験談がゾロゾロ出てくる。ただ虹を見ただけでなく、その現象に仏教を関連づける神経は、自己中心的な要素が満載だ。上祐はひかりの輪を宗教団体ではないと言うが、このように宗教感溢れた総括文を書きながら、宗教ではないと言う神経はやはり「ああ言えば上祐時代」の人格と何等変わっていない。

※ヴィジョンとは会社などでは経営方針などを言うが、上祐の総括文には解説がないので、幻影としておく。

## 住民協議会活動報告

5月20日(金) 実行委員会  
5月30日(月) 協議会ニュース156号初校正  
6月1日(水) オウム真理教対策関係市区町連絡会総会参加

6月4日(土) 下町まつりで募金活動  
6月6日(月) 協議会ニュース156号再校正  
6月7日(火) 事務局会議  
6月14日(火) 協議会ニュース156号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。